

令和元年度 第2回学校運営協議会 議事録

○ 開催日時：令和元年 11 月 2 日（土曜日）10 時 30 分～12 時 00 分

○ 会 場：本校応接室 他

○ 出席者

- ・齊木 稔 櫻蔭会（本校同窓会）・副会長【代理出席】
- ・小竹 護 横浜市立希望ヶ丘小学校・校長
- ・杉山 勝巳 横浜システム工学院専門学校・学院長
- ・青木 桂一 希望が丘商店会
- ・吉田 愛里 本校全日制 PTA・会長
- ・小林 佳子 本校定時制 PTA・会長
- ・宮地 淳 本校・校長

<事務局>

- ・福田 浩之 本校・副校長
- ・仲神 博 本校定時制・教頭
- ・安彦 伸一 本校全日制・キャリア支援グループリーダー
- ・佐藤 公彦 本校定時制・校務運営グループリーダー
- ・福士 徹也 本校全日制・連携グループサブリーダー

○ 次 第

1 開会

2 校長挨拶

- ・本日は第2回の学校運営協議会である。お忙しい中、さらに土曜日開催にも関わらず参加していただき感謝。
- ・昨年度までは学校評議員制度。学校運営協議会は、委員の皆様方に学校運営に参画していただくことが目的。1年目は希望ヶ丘高校を知っていただくことに重きを置く。
- ・本日は、定時制の文化祭。定時制の生徒の様子を見ていただきたい。湘南高・横浜翠嵐高・希望ヶ丘高の定時制は歴史と伝統がある。定時制は生徒が減少、課題といえる。高校改革Ⅲ期に向けて、県内高校定時制の再編統合も考えられる。
- ・本校定時制1年生は40名の在籍。3クラス編成による少人数展開。週1回「総合的な探究の時間」ではクラスの枠を越えて学年で実施。生徒に応じた体制をとっている。
- ・本日の定時制の文化祭には、舞台発表や作品展示がある。全日制の文化祭とは異なる雰囲気がある。後ほど、感想や御意見を頂戴したい。
- ・英語民間試験導入の見送りとの報道があり、本校もまさしくその渦中である。
- ・本日はよろしく願います。

3 「SSH（スーパーサイエンスハイスクール）運営指導委員会」について

- ・事務局（副校長）より、資料に基づき説明。「国際化への対応」「数値が求められない研究への対応」「情報発信」が課題。

（委員）時代の変化が激しい。高校生に対して、高いレベルの要求をしている印象。ついていけない生徒もいるではないか。大学受験もある。どのようにバランスをとっていくのか、学校の課題といえる。国際化の時代である。高い語学力が求められる。もちろん、論理力・思考力のためには日本語の能力も必要である。その一方で、大学院への進学を希望する学生が減少。海外への進出に後ろ向きである。かつては、記念祭において、生物部・物理部・化学部が活動をし、卒業生から指導を受ける場面もあった。

（事務局）「論理コミュニケーション」の授業において、意見を生かしていきたい。

（委員）小中学校における「総合的な学習」に類似している印象を受ける。小学校では地域学習に重点を置いている。70時間の学習時間がある。グルーピングが重要である。調べた結果を発表し、それらを還元することが大切である。高校生の学習活動が深まっていくことを期待したい。中学ではキャリア教育に重きが置かれている。小中高のつながりが持てていないことが残念であり、課題である。

（校長）9月18日に校内で中間発表を開催。次回は、1月31日に2年生全員76チームによる校内発表会を実施。体育館におけるポスターセッション。ぜひ来ていただき、ご指摘をお願いしたい。

（委員）国際化の時代において、語学力が求められている。本校でも是非対応を。

（委員）授業の中でどれくらいの時間を充てているのか。

（事務局）週1時間程度である。3年間にわたって課題探究を進めていく。大学院生によるTAやマイクロソフト社のTeamsを活用した指導を行っている。

4 「職業ワークショップ」について

- ・事務局（全日担当グループリーダー）より、資料に基づき説明。

（校長）分野が多岐にわたるよう講師を依頼している。

（事務局）入試制度に大きな変更がある。本校はSSHに指定。「職業ワークショップ」の見直しを検討している。

（委員）その通りである。AIの出現など世界は大きく変わる。職業選びや学部選びが重要であり、将来を見据えた進路選択が必要。将来を見通すのは難しいが、先生方の指導を期待したい。

- (委員) 南希望が丘中2年生が職業体験にやってきた。中学生が生き生きと活動していて、職業に対する理解を深めていた。かつては、教育実習の機会ぐらいしかなかったが、小学校・中学校では、大学生が様々な場面で学校や児童・生徒と関わっている。小学校教員免許を取得できる大学は限られているので、小学校の教員を志す大学生は早い段階で決めていたと考えられる。中学校で職業体験を行っているので、弁護士や公認会計士、裁判官の方から直接、話を聞くのは貴重な体験であろう。
- (委員) 生徒から希望をとったうえで、会場の割り振りをしているのか。
- (事務局) 生徒には第一希望から第三希望まで確認をしている。今回は、第一希望から第二希望で対応している。
- (委員) 現在の1年生が興味関心を持っている職業に関する数値といえるだろう。
- (委員) 卒業式を終えたばかりの3年生が在校生に対して、実体験に基づく講話をする機会はあるのか。
- (事務局) すでに実施している。

5 意見交換

- (委員) 桜蔭会では名簿を発行。判明率は70%程度。個人情報保護の観点により、名簿作成・会報発送・会費徴収で苦慮している。SSHは民間企業の協力で成り立っているようである。今日は、企業の協力なくして難しい。卒業生とのつながりと桜蔭会との絆を深めていただきたい。また、母校の卒業生同士の深いかわりも持てるだろう。大いに活用していただきたい。なお、定時制の名簿は、分冊となっている。伝統的な特徴でもある。
- (委員) 定時制文化祭を見学。生徒の作品を通して、一所懸命さや頑張りが見えてくる。人と触れ合ってコミュニケーションが取れることが大切である。学校がその機会を提供できれば良い。
- (委員) 希望ヶ丘高校といえば、一般的に全日制の印象が強い。生徒を見る目が多角的になればよい。良いところを見つけあって、伸ばしていければよい。先ほどドローンについて話題があった。専門学校でも取り入れている。役に立つことがあれば声をかけていただきたい。
- (委員) 定時制においても高校生らしい生徒が多い印象。先生方の愛情の深さを感じた。
- (委員) 定時制は生徒数が少ない分、生徒と先生の距離が近い。安心して子どもを通わせることができる学校である。

6 その他

- ・第3回学校運営協議会の開催は、3月上旬の予定。